

## 第 25 回サイトメトリー技術者認定試験 合格体験記

社会医療法人北楡会 札幌北楡病院 臨床検査技術科

柴田貴太

### I. はじめに

この度はこのような機会をいただき、日本サイトメトリー学会関係者の方々に感謝申し上げます。サイトメトリー技術者認定受験に際しアドバイスとなればと思います、私が認定試験を目指すことになったきっかけ、試験対策、当日の雰囲気等紹介したいと思います。

### II. 認定試験受験を目指すきっかけ

当院は北海道内でも有数の血液内科をもつ急性期病院です。検査室内にはフローサイトメーターが設置してあり、造血器腫瘍解析やリンパ球サブセット検査、また、造血幹細胞移植も行っていることから CD34 陽性細胞数測定等を院内で行っています。当検査室は人員が多くないため、複数の業務をカバーしあう体制となっています。私は、入職時に輸血部門に配属されたのち、造血幹細胞採取・移植部門も兼任することとなり、造血幹細胞採取時の CD34 陽性細胞数測定をする機会が増えました。また、血液部門では、血液像や骨髓像を見ながら腫瘍細胞の解析を行うことも増え、自分のフローサイトメトリーに対する知識や経験に対するしっかりとした土台となるものが必要と感じ、今回の認定試験を受験する決意をしました。

### III. 試験対策について

試験対策を始めたのは1月～2月頃と記憶しています。日本サイトメトリー学会 HP に掲載されている「認定サイトメトリー技術者筆記試験用到達目標」の項目1つ1つに対して回答を自分で作成することができることを最終目標としました。ベースとなるのは「スタンダードフローサイトメトリー第2版」(医歯薬出版 発行)です。各セクションを読み込んだ後に、「認定サイトメトリー技術者筆記試験用到達目標」の該当部分に対する回答を自分で作成し答え合わせをする、という作業を行いました。「読む(input)」だけでなく「書く(output)」ことで記憶の定着に非常に有用だと感じました。DNA 解析やソーティングなど日常業務で行っていない分野に関しては、イメージができず回答の作成が非常に難しい部分もありました。知識の派生として各メーカーHP にも有益な情報がたくさん載っているので活用させてもらいました。特に抗体と蛍光色素に関しては記号と数字の羅列で覚えるのが難しいため、メーカーHP に載っている抗体と蛍光スペクトラムの図は視覚的でわかりやすくおすすめです。日本サイトメトリー学会 HP に掲載されている「Medical Technology 誌 Vol.32 より、チャレンジ認定試験」はある程度知識に自信がもてるように

なった段階で解き、模擬試験のような形式で行いました。試験形式で行うことで実際の試験の緊張感やしっかり問題を読むなど試験に対する基本的な意識の確認にもなりました。間違えた所を復習することで知識の上乗せにもなりよかったと思います。

#### **IV. 試験当日について**

試験当日は、9時～16時まで技術講習会を受講した後に、16時半から認定試験が開始されます。技術講習会では数名の先生方が講師をしていただきました。自分で勉強してきた部分の再確認と各分野で重要なポイントを網羅した非常に素晴らしい講義でした。特に前述した DNA 解析やソーティングに関しては本を読むだけでは理解しきれない部分をしっかりと解説していただきました。また、最新の知見も紹介していただき大変有意義な時間を過ごすことができました。丸一日の講習会の後に認定試験があるので、前日はしっかりと休養をとっておくことをおすすめします。

#### **V. おわりに**

今回認定試験を受験したことによって、検査室の現場ではなかなかじっくり考えることのないフローサイトメトリーに対する基本的な知識をしっかりと習得することができました。この知識を土台に解析技術の向上や臨床への検査報告に活かしていきたいと思います。この体験記が今後認定試験受験を考えている方の後押しとなれば幸いです。